

とろみサーバーを導入しています

回復期リハビリテーション病棟には、嚥下障害^{えんげ}*1の方が多くいらっしゃいます。口の中でまとまりにくく水分の少ない食べ物は、とろみを付けることで飲み込みやすくなり、飲み物はゆっくり喉を流れるため、誤嚥^{ごえん}*2しにくくなります。とろみは患者さんの状態によって薄くしたり濃くしたりする必要があります。

各病棟にとろみサーバーを導入し、安定した質のよいとろみが付けられるようになりました。これにより、スタッフがとろみを調整する時間が短縮され、その分、口腔ケアや食事の姿勢などのフォローに時間をかけることができました。

人生の喜びは、食事です。今後も安全な食事を提供し、安心して入院生活を送れるようケアしていきます。



*1 病気や老化により、食べ物や飲み物がうまく飲み込めないこと *2 食べ物や飲み物などが誤って気管に入ってしまうこと

めだか

さんくろうニュース

MEDAKA

2月号

2024年 (No.93)

巻頭 新年にあたって

特集 病院機能評価の更新認定を受けました



yumi



医療法人三九会

広報誌名「めだか」は、当院の中庭でみんなに愛でられ育つめだかのように、親しんでいただきたいという思いから名付けられました。

めだか 93号 (2024年2月) 年3回 (2月、5月、10月) 発行

発行責任者：加藤 真二 発行：医療法人 三九会
〒471-0035 愛知県豊田市小坂町7丁目80番地
TEL 0565-32-0282 (代) FAX 0565-35-2570

表紙絵：「感動のキャンドル」坂尾 有美

外来診療のご案内 サンクロー
診療予約専用 ☎ 0565-35-3960



三九朗病院
モバイルサイト

患者さん、利用者さんの 笑顔、感謝の言葉を励みに

新型コロナウイルスの取り扱いが5類となって初めての年越しとなりました。感染対策の規制がなくなり、楽しい年末年始を過ごすことはできましたでしょうか。

当法人ではまだまだ規制が外せず、従業員は集団での食事会などの制限が未だに継続しています。これは入院されている方々に感染が広がらないための対策にほかなりません。当法人はリハビリテーションに特化した病院で、患者さんとの距離がどうしても近くなり、感染リスクが高くなります。そのような条件下で、安心して入院できる環境を維持するため、職員は皆、細心の注意を払っています。

このような中で、当法人は昨年4月、野見山に三九朗東リハビリテーション病院を開設しました。豊田市の西側と東側で充実したリハビリテーションの提供を可能にするためです。

2025年以降、これまでの日本を作り、支えてきた団塊の世代の方々が75歳以上の後期高齢者になります。これにより、今後、医療・介護が必要になる可能性のある方の数が一気に増してくることが予想され、これに対応できる医療・介護体制を整える必要があります。



理事長 加藤 真二

しかし、少子化で労働人口が減少する一方です。運送業の2024年問題などの人材不足問題と同じく、医療・介護界でも人材の不足が大きな問題になっています。最近の物価高騰や賃上げ基調の中、診療報酬制度、公定価格で行われている医療・介護は独自で値上げをすることはできません。相対賃金が低下すれば、医療・介護職からの人離れにつながることを懸念されます。今後、特定技能制度による海外人材の活用等も考えなければなりません。当法人でも来年度よりインドネシアから人材を受け入れます。何より、医療・介護の質を低下させることなく、働きがいのある職場になることを考えていきたいと思っています。

患者さん、利用者さんの笑顔、感謝のお言葉は、医療・介護に携わる私たちにとって何物にも代えがたい喜びであり、励みになります。皆さんの笑顔がみえる法人を目指し、これからも、理念である「ここに来て良かったと思ってもらえる施設になる」よう、組織を挙げて取り組んでまいります。

病院機能評価の更新認定を受けました



病院機能評価プロジェクト まつしげ よしお 松重 好男

当院は、医療の質の向上のため、2018年に初めて日本病院機能評価機構による第三者評価を受け、認定病院（リハビリテーション病院）となりました。このたび、認定後初の更新審査を受け、2023年11月10日に認定が更新されました。

病院機能評価とは

病院機能評価は、1995年に設立された公益財団法人日本医療機能評価機構による、病院の質改善活動を支援するための制度です。機構から派遣される医師や看護師、事務などの専門的な知識と経験を有するサーベイヤー（評価調査者）が、病院の組織全体の運営管理や提供される医療について、中立的、科学的・専門的な見地から審査を行い、一定の水準を満たした病院が認定病院となります。

認定病院は、地域に根ざし、安全・安心、信頼の得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力していかねばなりません。認定期間は5年間で、その後も認定病院となるには、認定更新の審査を受ける必要があります。

2023年からの新基準による認定病院に

今回の更新は、2023年4月に運用開始された「機能種別版評価項目3rdG:Ver3.0」によって審査が行われました。新たな評価基準は、これま



病院機能評価認定証

S評価（秀でている）を5つ獲得しました！

- ◎臨床における倫理的課題について継続的に取り組んでいる
- ◎地域の医療機能・医療ニーズを把握し、他の医療関連施設等と適切に連携している
- ◎地域に向けて医療に関する教育・啓発活動を行っている
- ◎安全確保に向けた情報収集と検討を行っている

<参考資料>

評価	定義・考え方	項目数
S	秀でている	5
A	適切に行われている	75
B	一定の水準に達している	3
C	一定の水準に達していないといえない	0
NA	非該当	7

での評価をさらに発展・充実させ、病院の機能をより適切に評価できるように、特性に応じて7つの機能種別の評価項目となっています。当院はその中の「リハビリテーション病院（90項目）」の審査を受けました。新基準によるリハビリテーションの認定病院は、2023年11月10日時点で当院を含めて6病院です。

さらに安全・安心な医療を提供するために

当院では、2018年に病院機能評価プロジェクトを立ち上げ、認定後も毎月継続して、医療の質の向上に努めています。こうした活動も今回の認定更新につながったと思います。

今回の更新審査の総括で、サーベイヤーから指摘された当院の課題や助言を生かし、さらにより良い医療が継続して提供できるよう、今後も努力していきます。



ナースの部屋

患者さんの笑顔のために

タスク・シフト/シェアを進めよう

看護部長 加納 明美

医療は、医師だけでなく多様な職種の連携により、チームで提供されるものです。いま、医療従事者の働き方改革を進めながら、質の高い医療サービスやきめこまかなケアを実現するために、チーム医療による多職種とのタスク・シフト/シェアが注目されています。当院の取り組みを紹介します。

今回のテーマ

入浴介助のタスクシェア～療法士との協働～

三九朗東リハビリテーション病院 リハケア部 勝田 亜由美

私たちのチーム医療

回復期リハビリテーション病棟では、以前から多職種のチームで治療を行っています。2023年4月に開院した病院で、チーム医療をさらに発展させ、職種の垣根を越えたワンチームによる患者中心のケアを開始しました。最初に、人材を有効に活用し、患者さんが安心して入浴できる体制を整備しました。



1 業務改善リーダーを療法士、看護師から選出

↓ 業務リーダーで2週間に1回を目安に進行状況や改善点を話し合う

2 入浴時間は療法士(リハビリ)が調整

↓ 病棟でリハビリ時間を確認し調整していたが療法士が調整することでシームレスに

3 初回入浴は療法士と看護要員で介入。安全な入浴方法をその場で共有

↓ 安全な入浴方法のための道具の選定や注意事項を継続して共有できている

4 機械浴の患者さんは療法士と看護要員で介助を行い、介助量の多い患者さんへの安全の確保や個浴への移行時期を共に検討する場とする

個々の介助量に合わせた適切な入浴方法がチームで検討できている

入浴介助を実践したスタッフの感想



療法士

- ★入浴時にリラックスしている表情を見ることができてうれしかった
- ★足場が濡れている状態での歩行状態を見ることができ危険箇所を再認識できた
- ★準備から片づけまで一連の動作として動きを確認することができた

看護要員

- ★新病院での新しい環境だったが、療法士と一緒に介助することで安心できた
- ★療法士が入浴時間を調整することで時間調整の負担が減り、ベッドサイドに足を運べる時間が増えた
- ★より良い介助方法を療法士と検討しながら、患者さんの声も一緒に聞きながらケアできることが楽しい



お互いの仕事を知り、ケアの質を落とさない

この取り組みを通して、「入浴介助は看護要員の仕事」という認識から、患者中心のケアという原点に戻り、入浴も生活場面で必要な訓練の一つという意識を持つことができました。また、限られた人員、与えられた環境で「どうやったらできるか、今できる最善方法は？」を考えるようになりました。

タスク・シフト/シェアでは、仲間の仕事を知ることが大切です。限りある人材のなかでもケアの質を落とさないために、お互いの仕事を把握し、感謝や思いやる気持ちを忘れずに取り組んでいきます。これからも、患者さん中心のケアを考えられるリハケア部を目指して、満足度向上につなげていきたいと思っています。



タスク・シフト/シェアの推進に貢献したことを表彰されました

「脳血管障害患者のためのメイクアップ教室」に参加して

メイクが人を笑顔にする



三九朗東リハビリテーション病院 リハケア部 作業療法士 杉山 まなみ

10月29日は「世界脳卒中デー」です。この日に開催された日本初となる脳卒中障がい者のためのメイクアップセミナー「わたしにもできる頑張りすぎない、いきいきメイクセミナー」（主催：NPO 法人ドリーム）に参加しました。

セミナーは、「スキンケア体験」「メイク体験」「パッケージ」「ヒアリング」という構成で、20代から70代までの幅広い年代の約30人が参加しました。

「スキンケア体験」「メイク体験」では、メイクの基本的な方法や片手で行いやすい方法などについて、実際に参加者が体験しながら学びました。参加者の方々がグループ内でメイクを見せ合ったり喜んだりして、表情が徐々に明るくなっていく様子を目にし、メイクが人を笑顔にし、外出のきっかけになることを痛感しました。

一方、講義後の意見交換では、「メイクは毎日のことなので、人には頼みにくい」「でも、毎日メイクしたい」など、スキンケアやメイクに歯がゆさを感じている方もいらっしゃいました。私たちが関わる仕事の中で、そうしたニーズがあるときには、自助具や方法の工夫などを提供できるよう努力していきたいと思えます。

今回の体験を生かし、患者さんの笑顔につながるよう、院内でも導入できる方法を検討していきたいと思えます。



テキストを確認しながらメイクしました



幅広い年代の参加者と学びました

Services Information

地震体験訓練、AED訓練

安全に緊急時の対応を行うために

三九朗東リハビリテーション病院 リハケア部 理学療法士 山淵 遼

東海地方は今後30年以内にマグニチュード8クラスの東海大地震が起る可能性があると言われています。当院では、2023年10月20日、消防署職員の派遣のもと、地震体験訓練（防サイくん）を行いました。訓練



地震体験訓練では「震度7」の揺れを体感

では、東日本大震災（震度7）と熊本地震（震度7直下型）を体験しました。どちらも立っていることはまず不可能な大きな揺れでした。体験車では机が固定されていますが、それでも机は吹き飛ばされそうなほどでした。

続いて、緊急時の全館放送である39コール*とAED訓練を行いました。毎年応急手当訓練を行っているため、放送を聞いてすぐ駆け付け、AEDを使うことはできていましたが、緊急用備品の到着が遅れる、数名のスタッ



AED訓練ではAEDは使用できたものの課題も発見

フが動けないといった状態が見られました。

緊急時ではさらに切迫した状況になると予想されます。定期的な訓練を行うことで緊急時の対応が安全に行えるように、医療人として心掛けていきます。

39コールとは、病棟・外来などで緊急に患者さんへの対応が必要な場合に三九朗病院が実施している病院職員に向けた全館放送のことです。

事務部から

事務長 伊藤 順七蔵

介護分野の 特定技能外国人の受け入れ

「特定技能」は、介護分野など人手不足が深刻な産業分野で、一定の専門性・技能をもつ外国人材を受け入れるために2019年4月に設けられた在留資格です。

三九会でも、昨今、患者さんの介護や介助を担う人材の不足が課題となっています。そこで、2024年度から、三九朗東リハビリテーション病院において、インドネシアから3人の特定技能（介護）人材を受け入れることになりました。

昨年9月に理事長、看護部長とともにインドネシアへ行き、受け入れ予定の3人と面談してきました。皆、とても礼儀正しく、明るく、やさしい方たちです。

インドネシアと日本とでは、宗教や文化も大きく違うので、彼女たちも日本の生活に慣れるまで大変ですが、即戦力となってもらえるよう、スタッフ一同、協力して彼女たちをサポートしていきます。



ご存じですか？

在留資格「特定技能」とは

特定技能の在留資格は「特定技能1号」「特定技能2号」の2種類があります。
介護分野で働く外国人は「特定技能1号」の在留資格が必要です。

【特定技能1号のポイント】

- ✓ 在留期間：更新によって5年まで延長が可能
- ✓ 業務の範囲：在留資格「技能実習」に比べ、業務を幅広く行うことができる
- ✓ 転職：「技能実習」は転職できないが、「特定技能」は転職可能
- ✓ 受入方法：紹介会社を利用するほか、受け入れ企業が直接採用することも可能
- ✓ 受入人数：事業所単位での日本人等の常勤介護職員の総数が上限

※ 2023年12月時点

SHIN-SHIN とよた が発信します！

筋トレで身体の芯までぽかぽか

寒いと体を動かす機会が減り、日常の活動量も自然と少なくなります。
今回は気軽にできる家トレを紹介します！



腕立て伏せ

胸・腕

- 胸を壁に近づけるように肘を曲げる
- 両手で壁を押し、肘を伸ばし元に戻る



腹筋

おなか

- 目線はおへそに向け、息を吐きながら上体を起こす

勢いをつけずゆっくり行いましょう



肩甲骨が離れるくらいまで

20回 × 2~3セット

無理なく行いましょう

スクワット

太もも

- 膝がつま先からでないように
余裕があれば膝を90度曲げましょう



カーフレイズ

ふくらはぎ

- かかとをしっかり持ち上げる
- ゆっくりとかかたをおろす



見学・無料体験受付中！ スタジオ参加もできます！！

入館時の検温・手指消毒・マスク着用にご協力ください

● メディカルフィットネス SHIN-SHIN とよた (三九朗病院内) ☎ 0565-34-6272

【体験受付】 10:00~19:00 (休館日: 日曜日) 【営業時間】 9:00~21:00 (土・祝 20:00まで) (休館日: 日曜日)